

仙北市 第三セクター等経営健全化方針

株式会社おもてなしせんぼく経営健全化方針

1 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和8年3月4日

作成担当部署 総務部総務課

2 第三セクターの概要

法人名 株式会社おもてなしせんぼく

代表者名 代表取締役社長 相原智仁

所在地 仙北市角館町西長野古米沢 30-19

設立年月日 令和4年9月1日

資本金 50,000千円【仙北市の出資割合 79.98%】

業務内容

花葉館、西木温泉ふれあいプラザクリオン、都市農村交流施設（田沢湖ハーブガーデンハートハーブ）、仙北市民浴場東風の湯の管理運営業務

3 経営状況、財政的なりスクの現状及びこれまでの市の関与

(1) 経営状況、財政的なりスクの現状

株式会社おもてなしせんぼくは、仙北市内の第三セクター4社合併により令和4年9月に設立され、事業の選択と集中による経営効率化を目指してきた。

しかしながら、設立3期目（令和6年度）においても黒字化には至らず、営業収益は3億600万円、最終利益は約2,000万円の赤字となり、経営改善計画（計画値：黒字2,600万円）を大幅に下回る結果となった。要因としては、中核施設である花葉館の売上が前年比92.4%に留まり、特に宿泊宴会部門での集客不足により約7,000人の利用者減少（前年比約7%）となるなど、集客力の低下が顕著である。

財政面では、令和6年度末時点で約3億700万円の債務超過状態にあり、財政基盤は極めて脆弱である。さらに、市からの貸付金（約2億9,000万円）の返済が令和7年10月から増額となることから、現行の収益構造のままでは資金ショートに陥るリスクが高まっている。

(2) 仙北市の関与

①設立時及び経営統合時の支援（過去の経緯）

市は、第三セクター4社の合併に際し、経営コンサルタントによる現状分析及び事業計画策定を支援した。また、財政的関与として、令和4年に総額2億7,000万円貸付を実行し、旧各社の金融機関借入金を繰上償還させることで、金利負担の軽減と財務の健全化を図った。

②経営危機への対応と抜本的改革の主導（現在の関与）

現在、当該法人が直面する危機的財務状況に対し、市は抜本的改革を主導する立場から、資金ショートを回避するため、月次の資金繰り確認と定例経営会議による厳格なモニタリング体制を構築する。併せて、ネット販売の強化や少人数体制の構築等の改善策が着実に実行されるよう、進捗管理と助言を含む伴走支援を行うとともに、国の補助事業等を活用した地元事業者との連携強化を図り、市に新たな財政負担を生じさせない形で集客及び収益向上を側面から支援する。

4 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

市としては、抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討の結果として、会社統合による経営の合理化を図り、第三セクターを存続させることを既に判断している。令和4年には経営改善計画を策定し、現在は計画の実施途中段階にある。一定の住民サービスを維持するため、市が積極的に経営に関わりながら、事業の選択と集中による効率化を図ることとしている。

5 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

当該法人及び市は、経営健全化のため、引き続き、次の点に取り組むこととする。

- (1) 販売単価の見直しや事業及び各施設間でのシナジー効果の発生を促す施策を実施することで売上の確保に努める。
- (2) 事業採算の改善に努め、収益力の増加を図る。
- (3) 施設の利用状況を分析し、営時間短縮や休館日、サービスの休止日を設ける等の営業体制を見直ことによりコスト削減を見込み、利益の改善を目指すとともに、従業員の働く環境を整える。
- (4) 人員配置の見直しを行うことでコストの削減に努める。
- (5) 営業スペースや事業の縮小により、オペレーションを見直すことで少ない人数で営業できる体制をつくる。
- (6) 利用者減少の大きな要因となっている宿泊事業の集客強化に取り組む。具体的には、宿泊予約サイトの掲載情報の充実や、ターゲット層に合わせた魅力的な宿泊プランの造成など、ネット販売の強化に注力する。併せて、利用者からの口コミに対して迅速かつ丁寧な対応をするなど、地道な顧客対応を通じて施設の評価を高め、新規顧客及びリピーターの獲得を図る。

6 法人の財務状況

	項目	金額(千円)		
		R4 年度	R5 年度	R6 年度
貸借対照表から	資産総額	97,997	51,668	20,042
	(うち現預金)	61,069	32,840	5,302
	(うち売上債権)	5,404	2,934	2,320
	(うち棚卸資産)	9,892	6,884	5,853
	負債総額	338,550	338,422	327,657
	(うち当該地方公共団体からの借入金)	296,200	293,200	290,200
	純資産額	-240,554	-286,754	-307,615

	項目	金額(千円)		
		R4 年度	R5 年度	R6 年度
損益計算書から	売上総利益	172,609	321,785	312,937
	販売費及び一般管理費	245,123	370,909	336,402
	営業利益	-72,514	-49,124	-23,464
	営業外収益	11,172	2,923	2,633
	当期純利益	-61,341	-46,201	-20,861

- ・ R4 年度の決算期間は R4 年 9 月 1 日から R5 年 3 月 31 までの 7 か月